

を思ふもいとめづる。いふ所り砂の中
より金を採る。心持して採れとてに記
して後人考へき便とて宝永元年領主の
沙島により新賣木出とて書けり。嶽の薬
師と平記して熊野権現といふ事なれを
熊野神祠といふ事も宝永以後の事や。然
るに社殿祇長上より拝観の由件状は熊野
相伝とありを思れ。熊野といふも久し
き事なり。領主より係属といふ事や。嶽
より平清水温海市の地勢を思ふにむ。地

なり。芭蕉翁新神の神社の浦を
ある見つけや。吹浦りけて久きこと
又河田全貞と云ふ。温海とてよ。この歌
は。温海の事なり。いりておのふへき。

霧立空の山のまうとて

そ外詩奇俳句多あれ。熊野の略々
お件の新去年三度考へ記して。傳れとて又
重ねて。うに記を以て。日如海氏。お洲鑑と云
おを思ふに。有馬湯の山雲集といふあり。そ
條数の内よ。曰人皇七十三代。堀川院の代